

- 学校教育法等関係法令
 - 第7次福島県総合教育計画(頑張る学校応援プラン)
 - 大玉村学校教育指導の重点
- 「夢を育てる教育」～おおたまに学び、世界とつながる人間の育成～

- <保護者の願い>
- 規則正しい生活習慣、あいさつや返事等を身に付けている子
 - 家族や友達、他人に対する思いやりのある子
 - 自分の意見をはっきりと分かるように言える子
- R5学校教育アンケート調査より

令和6年度
大玉村立玉井小学校 学校経営・運営ビジョン

教育目標

自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども

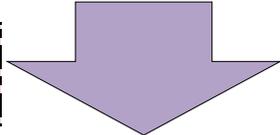
・自ら学ぶ子ども ・心豊かな子ども ・たくましい子ども

- <目指す学校像>
- 明るく活力に満ちた学校
 - 互いに学び磨き合う学校
 - 子どもの安全を第一にする、学校事故未然防止に努める学校
 - 地域とともに歩む学校
- ・ いい学校は、いい地域をつくり
いい地域は、いい学校をつくる

- <目指す教師の姿> ～質の高い教育力のある教職員集団～
- ・ 子どもと共に考え、悩み、行動し、学ぶ「子ども主役で考える」教師
 - ・ 自らの職務に誇りとやりがいをもち、自主性、主体性あふれる教師
 - ・ 児童や保護者、同僚、地域からの信頼感あふれる教師

令和6年
今年の漢字 『**楽**』

「何事も楽しむ心をもち、取り組もう」楽しいから頑張れる。楽しいから続けられる。また、周りの人に「楽しんでもらおう。そのために自分は…」という他者意識も大切にしたい。



重点 目標	・自ら学ぶ子ども		・心豊かな子ども		・たくましい子ども		重点 目標		
	主体的に学び、学んだことを活用できる子ども		自分や人、ふるさとを大切にできる子ども		自分の体に関心をもち、体力向上に努める子ども				
重点 実践 事項	1 基礎的な学力の向上 ① 具体的な体験を伴う学習を通した言語能力(聞く・読む・話す・語彙の獲得)、数・量感覚の育成 ② 「自己マネジメントカード」を活用した家庭学習と読書習慣の育成、家庭との連携の工夫		小さな成功体験の積み重ねから自己肯定感へ	1 自他のよさを認め合う道徳教育の充実 ① 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える道徳科の授業の充実(「B親切、思いやり」「A努力と強い意志」) ② 自分の考えを表現することで多様さを互いに認め合い、高め合う態度を育成する取組の工夫		小さな成功体験の積み重ねから自己肯定感へ	1 体力・運動能力の向上と日常化に向けた指導の充実 ① 各学年の実態に応じた「運動身体づくりプログラム」と補強運動の継続的実践(筋力、持久力、瞬発力) ② 業間(玉つ子外遊びタイム)、昼休みに体を動かして遊ぶことのできる時間と環境の設定 ③ 体育科における学習カード(マラソンやなわとびカード等)の有効的な活用		重点 実践 事項
	2 子どもの学びを深める授業づくり ① 児童が学ぶよさを実感できる単元展開及びコーディネートや振り返りの工夫 ② 情報活用能力の育成 ・図書室やICT等の効果的な活用(収集・整理・技術・モラル等)			2 一人一人のキャリア形成と、自己実現を図る特別活動の充実 ① 希望や目標の実現に向けて、日常生活をよりよくしようとする態度の育成 ・チャレンジタイムの活用 ② 学校や学級での集団活動に主体的に参画しようとする態度の育成			2 健康な生活に向けた健康マネジメント力の育成 ① 健康的な生活習慣(メディア、睡眠、運動、朝食、歯磨き)に関する自己管理能力の育成 ② 朝食調べ等の家庭との連携の充実		
達成 基準	3 実践力の向上を図るための体験的学習の充実 ① 問題発見・解決能力の育成 ・生活科、総合的な学習の時間を核とした複合的・横断的な学びの展開 ② 地域の自然、施設、人材、伝統文化等を効果的に活用した学習活動の充実(地域学習・探究活動・課題解決学習)		小さな成功体験の積み重ねから自己肯定感へ	3 一人一人を大切に生徒指導の充実 ① 人との関わりを大切に「委員会・係活動」「ふれあいタイム」の時間の工夫 ② 自己決定の場と活躍の場の意図的設定による自己有用感の体感 ③ 自立心や心の強さを育む日常的指導と家庭や地域との連携		小さな成功体験の積み重ねから自己肯定感へ	3 自分や他者の命を守る教育の実践 ① 保護者や関係機関との連携による命を守る指導及び訓練(交通教室、避難訓練、防犯教室、引渡し訓練等)の工夫・改善 ② 「防災教育」「放射線教育」に関する理解を図る系統的指導(防災教育・ふくしま放射線教育指導資料の活用)		達成 基準
	○ NRTの平均偏差値全国平均値 ○ 家庭学習「質」の向上・「時間」の増加 (自主学習ノート・自己マネジメントカード) ○ 全国学力学習状況調査 全国平均値 ○ 読書における自己目標の達成			○ 心のこもったあいさつができる児童の増加 ○ 不登校児童ゼロ ○ いじめで悩む児童ゼロ(いじめ見逃しゼロ) ○ QUアンケート結果の向上			○ 新体力テスト AB群の増加、DE群の減少 ○ 肥満傾向児童の減少 ○ 体育、外遊びに関する学校評価アンケート結果の向上 ○ 保護者と連携を図った引渡し訓練の実施		

教育活動の様々な場面において、自己マネジメント(RPDCAサイクル)の機会を設け、生かす

A:改善 ← R:実態把握 → P:計画(目標・構想) →
 ← C:評価 ← D:実践

3つの重点実践事項を推進するための基盤づくり

- 児童相互並びに児童と教師の信頼関係づくり：よりよい人間関係づくり、集団づくり ・QUの効果的活用
- 家庭・地域・関係機関との連携：・おおたま学園(幼小中)の交流 ・行政、企業等との連携 ・地域学校協働活動事業の有効活用 ・PTA活動の充実 ・HPによる発信等情報提供の充実 ・CS委員会との連携
- 望ましい学級のルールやマナーの共有(児童相互並びに児童と教師)
- 生徒指導の充実： ・教育相談、個別面談等の充実 ・生徒指導の機能を生かした授業実践(自己肯定感醸成につなげる) ・人権意識、規律意識の育成 ・「あいさつ」「めあてを守る」日常実践の徹底 ・ボランティアの協力 ・SC、SSWとの連携
- 特別支援教育の充実： ・個のニーズに応じた特別支援教育の推進(校内支援体制の整備、インクルーシブ教育の推進、SC、SSW、関係機関との連携)